ヨコトリーツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!

Jan.2017 THE SECOND SEASON Vol.02

[通巻14号]

ヨコハマトリエンナーレ2017って何?

「ヨコトリーツ! (Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター "ハマトリーツ!" による手作りのフリーペーパーです。「トリーツ／Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句 "Trick or Treat!" (「トリックオアトリート!」＝お菓子をくれなきゃイタズラをするぞ!) から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指します。

ヨコハマトリエンナーレ2017 「島と星座とガラパゴス」
会期: 2017年8月4日 (金) ～ 11月5日 (日) ※ 第2・4木曜日休場 | 主会場: 横浜美術館／横浜赤レンガ倉庫1号館 | 公式Webサイト: http://www.yokohamatriennale.jp/

トリエンナーレ学校2017冬・春期講座開催！

トリエンナーレ学校2017
www.yokotorisup.com
参加は公式ウェブサイトから
お申し込みください

トリエンナーレ学校は、横浜トリエンナーレを盛り上げるボランティア（=サポーター）活動の一環として2005年から始まりました。様々なテーマを持つ講座に参加することで、横浜トリエンナーレをはじめ、国際展やアート、創造都市などに関する知識を楽しく身につけていく学校です。

1/25(水) 2/22(水) 3/22(水)

時間：19:00～21:00（開場18:30）
場所：横浜美術館レクチャーホール

参加費無料

ヨコトリーツ! 読者の声募集

ヨコトリーツ! では、「読者の声」コーナーを設ける予定です。皆さんの声を紙面作りに生かしたいと考えています。ぜひご意見ご感想をお寄せください。いただいたご意見ご感想は、一部を紙面、ヨコトリーツ! オンラインへ掲載させていただきます。
「読者の声」投稿ページはこちらから。
【Web】 http://bit.ly/readers-voice
投稿ページは暗号化通信を用いていますのでセキュリティ上の心配はありません。
【メール】 yokotreats-editors@googlegroups.com
ご意見に加え、ペンネーム、性別、年代をご記載いただければあわせて掲載します。
QRコードからも投稿ページをご覧いただけます。

「ヨコトリーツ! オンライン」オープン!

本紙「ヨコトリーツ!」のオンライン版「ヨコトリーツ! オンライン」がオープンしました。紙面に載せきれなかった情報、号外などを載せていきます。ぜひ訪問してください。フォロー、シェアもお願いします。
http://yoko-treats.tumblr.com/

横浜トリエンナーレサポーターHama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリーツ!」THE SECOND SEASON Vol.02 [通巻14号]
● 企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター ハマトリーツ! 情報発信G (青木邦彦 / 上田良寛 / 木村彰一 / 巽知代 / 平本晶子) ● カバーアート: 野口みちの ● 発行日: 2017年1月15日 ● 発行元・お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局 [横浜市西区みなとみらい3丁目4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内 TEL: 045-228-7816 MAIL: info@yokotorisup.com] ● ハマトリーツ! (横浜トリエンナーレサポーター) 公式WEBサイト: http://www.yokotorisup.com

次号予告 本番に向けサポーター活動が加速 2017年3月 発行予定

横浜美術館ボランティアによるガイドツアー

美術で街歩き－描かれた横浜をたずねて

横浜トリエンナーレのサポーター活動は、今年度から横浜美術館ボランティアの皆さんも合流して、進めています。
今回は、横浜美術館ボランティア独自の活動をご紹介します。同館の2016年度第２期コレクション展テーマのひとつ「描かれた横浜」の展示作品の舞台となった場所を実際に巡る４つの街歩きツアーを開催しました。11月27日に行われた「港の風景コース」の参加レポートをお届けします。(青木)

ツアーは、小学生の男の子も入った9人の参加者 (我々取材班を含む) と3人の美術館ボランティアガイドさんで出発!!
まず元町：川上澄生の版画集『横濱懐古』を元に、関東大震災前のグランドホテルの場所やイギリス・フランス軍が駐留していたフランス橋付近と、今を見比べました。その後、話は、ローマ字考案者ヘボン博士と、横浜近代史まで広がっていきました。
次に山下ふ頭裏に：武林敬吉の《はしけ》と見比べようと小高い所を登ると、敷地内には人影もなく、眼下にはクレーン車や接岸された大きなはしけの一群が静かにあるだけ。海辺に浮かぶ堂々とした姿のはしけ、船体にあるY (横浜)、T (東京) というイニシャルが印象的でした。
そして海岸通り：旧英国七番館近く、中西利雄の《横浜風景》に描かれたアメリカ領事館跡地に建つホテルモントレ横浜のロビー壁に、領事館の写真と当時の型のライトが置かれ、写真前には一輪のバラが。

最後は山下公園：関東大震災のおり被災在日インド人を助けた横浜市へのお礼に、インド水塔が贈られた、という話がありました。
街歩きをする中、明治～平成と姿を変えていった横浜を感じつつ、明治・大正のカオリする異国情緒あふれた近代日本の趣きを残す、ヨコハマの良さを再確認できたツアーになりました。 (平本)

各グループ近況報告

ハマトリーツ! は6つのグループで自主活動を行っています。
各グループからの最新の活動報告をお届けします。気になる/参加してみたい活動があったら、ハマトリーツ! 公式WebサイトをCheck it out!

遠足

他の芸術祭サポーターとの交流やハマトリーツ! 内の他のグループとの共同企画を行っています。11月3日には、総勢27人で、さいたまトリエンナーレに遠足して来ました*。また「観る・学ぶ」グループと共同で横浜美術館の企画展を鑑賞し、感想交換会を実施しました。今後はグループ名を変え、いよいよヨコトリ本展を盛り上げる企画を考えて行く予定です! (木村)
* 裏面の記事をご覧ください。 (編集部)

活動支援

月一回の自主活動日ごとにハマトリーツ! にも新顔が増えて嬉しいかぎり。活動支援グループでは毎回初心者ツアーを開催していますので、これから参加しようかなと思われているそこのあなた! 気軽にご参加ください。これまでの、これからのハマトリーツ! をお伝えします!
他にも企画盛りだくさん☆キラッ (久地岡)

アートアクセシビリティ

障害のある・なしに関わらず、横浜トリエンナーレに行ってみたいと考える方々が、より来場しやすく、より楽しめるよう、活動を進めています。現在は、みなとみらい地区にあるパブリックアート作品を題材に、本展で実施する企画案を検討中です。ヨコハマトリエンナーレ2017での企画実現に向け、一緒に活躍いただける方を募集中です(^ω^)ノ (脇川)

時をかけるヨコハマ

11月20日に第16回 路上観察会「野毛山・掃部山界隈を辿る」を開催しました。まち歩きと共に歴史を辿る「路上観察会」を月１～２回実施し、その案内書を発行する準備を進めています。デザイン・編集など得意なアナタ! 過去も未来も星座もガラパゴスも飛び越えて、横浜を一緒に駆け巡りませんか? (キャサリン)

情報発信

昨年10月に第1号を発行したフリーペーパーですが、この度、なんとか第2号の発刊に漕ぎ着けました。そして、これまでフリペ1本で進んでいた情報発信グループ、いよいよ印刷媒体とウェブ発信の両輪でハマトリーツ！の活動をますます多方面に発信していきます。新メンバー、相も変わらず絶賛募集中。来たれ、老若男女! (青木)

観る・学ぶ

アート鑑賞講座「ごっつしばいたろか現代アート」* や、同じ展覧会を鑑賞したサポーター同士でその感想を交換する「おしゃべりランチ会」の企画・運営を行ってきました。ヨコハマトリエンナーレ2017に向け、お客さんにより深く・より楽しんで作品を鑑賞してもらう方法を話し合っています。(高砂)
* 裏面の記事をご覧ください。 (編集部)

2016年10月11日、ヨコハマトリエンナーレのタイトルとコンセプトが発表になりました。タイトルは「島と星座とガラパゴス」。今号では、ヨコハマトリエンナーレ2017ディレクターズの一人である逢坂恵理子氏（横浜美術館館長）が登壇した昨年10月の「トリエンナーレ学校」のレポートと、編集部が同氏に直接投げかけた質問への回答を通して、その謎に迫ります。

島？星座？ガラパゴス？

ヨコハマトリエンナーレ2017のタイトルの謎

トリエンナーレ学校2016 vol.8 “【ヨコハマトリエンナーレ2017】ディレクターが語るヨコトリ2017” レポート

毎回好評のトリエンナーレ学校ですが、今回は、逢坂ディレクターから直接お話を聴けるチャンスでもあり、いつにも増して多くの方々が来場されていました。

「2017年」がどういう年なのか。大政奉還から150年、ロシア革命や、現代美術のスタートとも言われるマルセル・デュシャンの「泉」(レプリカは何度か見たことはありましたが、それだけ革新的な作品だったのですね…) の発表から100年。政治や美術や制度が目まぐるしい変化を遂げる中で、また、多くのことがオリンピックの行われる2020年を見据えて動き始めている中で、2017年に行われるヨコトリはどうあるべきなのか。

巷で溢れつつある数々の現代美術展の中で差別化を図っていくことを視野に、業界、世代、国籍もさまざまな９名のメンバーを選び、「構想会議」を構成しました。今回ヨコトリ2017では、一人のアーティスティックディレクターが全体を引っ張るのではなく、構想会議の対話の中からコンセプトを紡ぎ出す方法を選んだそうです。逢坂氏のインタビューでその背景が語られています。

複数回の議論の場を経て、決定されたヨコハマトリエンナーレ2017のタイトルはずばり「島と星座とガラパゴス」。とかく抽象的・概念的なものが多い現代美術展のタイトルの中で、具体的な事物の配列による命名は当初、少し意外なものに聞こえました。

「島」という「孤立」した環境において、「独自の進化」と「多様性」を見せる「ガラパゴス」。「星座」は無数の星という点を繋ぎ神話を生み出した「想像力」、「接続性」と古の航海における「道しるべ」。

保守化する世界、多くのものが孤立しつつも (「島」)、独自の進化を遂げていく(「ガラパゴス」) 現代。そういう世界の中で、アートとして何が出来るか。島と島をつなぎ、新たな価値 (「星座」) を生むことができるか。開国後、島国日本と世界を繋いできた「横浜」で「島と島をつなぐ」芸術祭となるべく決定されたタイトルでありコンセプトであることを聞き、その印象は当初とは大きく変わりました。

また、次にご紹介いただいたのが、これまた興味深い、新たな取組みである「ヨコハマラウンド」。トリエンナーレを多角的に伝えることを目的に1月から開かれる講義や対談を中心とした公開対話シリーズで、第1回は1月15日 (日) に横浜美術館にて開催、構想会議のメンバーの養老孟司さんにご登壇いただくとのことでした。全てが「0と1」で置き換えられるデジタル時代において、その間にあるアナログ的な無限領域こそがアートに託された場所ではないのか。構想会議で行われたそんな議論のエッセンスを知ることができそうです。

具体的な作品やアーティストの情報については4月以降まで待つこととなりそうですが、新たな取組みに加え、コンセプト策定の中心メンバーである逢坂ディレクター自らにその経緯をお話いただいたこともあり、大変興味深い講演でした。(青木)

ヨコトリ2017ディレクターズ

逢坂恵理子氏への紙面インタビュー

— タイトルとコンセプト決定に至った背景についてお聞かせください。

逢坂: 私たちの予想をはるかに超えて、21世紀の世界の政治、経済、文化、自然の状況はめまぐるしく変化し、さまざまな対立や混迷化を深めています。そして、世界の様々な事象・課題は対岸のできごとではなく、私たち個人の生活にも深く影響を及ぼしつつあります。一方、アートの分野では、世界各地でビエンナーレ、トリエンナーレといわれる現代美術の国際展が急増し、日本でも特に2010年以降、大小含めて数多く開催されるようになりました。いわば食傷気味の中で私たちは、横浜トリエンナーレの在り方や独自性＝「ヨコトリらしさ」をどのように打ち出すかを検討してきました。

そして今回は、準備のプロセスからこれまでとは異なる方法を採用することにしたのです。ひとりのアーティスティックディレクターに依頼するのではなく、対話を重視し、美術のジャンルを超えた多様な方々とともにチームワーク方式で進めることにしました。手間はかかっても異なる分野の方々と連携し違いを認識しながら、アートが内包する柔軟性によって、課題を乗り越え、閉塞した状況を突破する道標や可能性を示唆することができればと思っています。さらに2017年は、大政奉還から150年でもあるので、横浜の歴史を振り返りながら、地域の特徴をふまえ、世界へ発信することも大切と考えています。

— 具体的な言葉で構成されたタイトルは他の芸術祭にあまり見られない特徴です。反響はいかがですか。

逢坂: 一見、夏休みにぴったりに思えるかもしれませんが (笑い)、このタイトルは意味深長です。アーティストや海外の美術関係者、プレスからの反応は概ね良いですね。「島と星座とガラパゴス」は、具体的な言葉を敢えて並べたことで、単語が示す直接の意味だけでなく、そこからイメージが広がり、いろいろな事柄について思い巡らせる効果が生まれます。構想会議でも、各メンバーがご自身の専門領域、関心対象ごとに異なる多様なイメージを語り、議論を深めることができました。例えば、「ガラパゴス」は日本では『ガラケー』に代表されるように、閉じた世界での需要を意味し、どちらかといえばネガティブですが、生物学的な視点ではポジティブな意味合いが強く『独自の進化』『オリジナリティ』『多様性』が挙げられました。「島」という単語からは『島国根性』『島国』『諸島』『地方 (「ちほう」ではなく「じかた」と読みます)』『小さな組織』『連続』といったイメージを、「星座」からは『想像力』『水先案内』『道しるべ』が挙げられました。今回のタイトルには、島のような孤立したバラバラな状況を、星座のごとく想像力によってつなぎ、ガラパゴスに象徴されるような多様性へと導くという意味合いが含まれています。

— タイトルをアーティスト/作品選定にどう具現化していくのか、そのプロセスをお聞かせください。

逢坂: 今回の大きなテーマは「孤立」と「接続性」です。英国のEU離脱や米国の大統領選挙に象徴されるように、世界は他者や多様性を受け入れるよりも、限定された価値観を共有する範囲に留まろうとする孤立の方向に傾きつつあります。日本では老人の孤独死やいじめも大きな課題です。今回は、人々をつなぐチームワーク的な作品、異文化を受け入れた開港後の横浜の歴史を意識した作品など、キュレトリアル・チームでテーマにそって多くの候補を出し、現在、絞る段階にきています。今回はどちらかといえば参加アーティスト数を増やすよりも、一人一人のアーティストの展示を丁寧に作り上げる予定です。ひとつひとつが小さな個展=島ですが、それをつなぐと群島のようになるイメージですね。

逢坂恵理子氏 (横浜美術館館長)

— 最後に、サポーターへの期待、メッセージをお願いします。

逢坂: 開催地である「横浜」という場所・歴史に着目しつつ、顔の見える国際交流を進めたいと考えています。サテライト会場の一つとして活用を検討している開港記念会館のような歴史的建築物だけではなく、地域の住民や団体、事業者の方々なども横浜というまちの大切な財産です。

特にハマトリーツ！の皆さんは会期中のみならず、中間年にも積極的な活動でこの事業を支えてくださっていることに感謝しています。開幕に向け、アーティストや作品が具体化する過程で、実際の作品制作の支援もお願いすることになるでしょうし、会期中の来館者の皆さんへのおもてなしや様々なイベントの実施、そして作品鑑賞のガイダンスなど、ハマトリーツ！の皆さんに活躍していただける機会をたくさん提供できればと考えています。どうぞ引き続き、個々のものをつなぐために、ご支援、ご協力いただければ幸いです。今年はなんと横トリならぬ酉年。今年の横トリは語呂合わせのよい年なので、空に鳥が羽ばたくように、皆さんとご一緒に横トリが更に飛躍できるよう願っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

これ以外にも「構想会議」、「ヨコハマラウンド」、ヨコトリ2011との違いなど興味深いお話をいただきました。全文はヨコトリーツ! オンラインでご覧ください。

サポーター活動トピックス

2016 10/29

サポーターズ・サロン　プレ企画「ごっつしばいたろか現代アート」～「あざみ野コンテンポラリーvol.7　悪い予感のかけらもないさ展」をしばく～

ヨコトリ2014で好評を博したサポーター企画、天野太郎氏（横浜市民ギャラリーあざみ野主席学芸員）による現代アート講座「しばいたろか現代アート」がパワーアップして帰ってきました。

今回は横浜市民ギャラリーあざみ野にて、同館で開催された「あざみ野コンテンポラリーvol.7　悪い予感のかけらもないさ展」をテーマに天野氏にお話しいただきました。内容は展示作品の解説にとどまらず、企画段階でのアーティストとのやり取り、さらに現代アートの動向にまで広がりました。参加者は22名、1時間弱の短い時間ではありましたが、熱心に天野氏の講話に聞き入っていました。

講話と鑑賞の後は、参加者有志で天野氏を囲んだ交流会が行われました。お酒も入りながら、日中とはまた違った雰囲気でのアート論議に花が咲きました。

「ごっつしばいたろか現代アート」は、ヨコトリ2017に向け、継続して開催を予定しています。（巽）

集合写真

2016 11/3

秋の遠足企画「さいたまトリエンナーレ2016に行こう！」

ハマトリーツ！遠足グループの企画により、さいたまトリエンナーレ2016への遠足が行われました。

当日は爽やかな秋晴れで、絶好の遠足日和。さいたまトリエンナーレサポーターの方に道案内と作品解説をいただきながら、午前中は希望者のみで大宮エリアを、午後は全員で岩槻エリアの旧民俗文化センターを巡りました。

さいたま市は、縄文期から「生活」する場であり、現在も東京への通勤者が多いという地域特性があります。そこからインスピレーションを得働いたアーティストが、市民と協働してつくり上げた作品が多く、さいたま市民であるサポーターが作品づくりの大きな力となっていると感じました。

鑑賞後は、さいたまトリエンナーレサポーターとハマトリーツ！との交流会が行われ、約40名が参加。さいたま・横浜それぞれのお土産披露に始まり、相互のサポーター活動の紹介、作品制作の裏話など話題は尽きず、盛況のうちに閉会となりました。（巽）

交流会の様子